宮野秋皐編

俗語と雅辭 全

附錄 假字遣・誤り易き字音・同訓異解

緒言

●世に俗語を輯めたる辭書少からずと雖も、所謂百姓訓、誤語の假字、推測の語辭を列れたるもの耳多く、現今の俗語を收めたるものに至りては絶えて之れあるなし。故に今の文を作る者、概ね皆これら舊套に學びて、あたら白玉に微瑕を添へ、或は强ひて俳諧の語辭を捏造し、以て識者の嘲を沽ふもの往々にして見る所なり。今斯書輯むる所の語辭や、博く古今の諸書を渉獵し、且つ現時諸大家の佳作に就いて精校したるもの、即ち一辭一語の杜撰なき、固ふより編者の責を負ふ所なり。

●語辭配列の順序は、全篇いろは順に從ひて部門を分ち、各部門、清濁を論ぜず最少の音を冒頭に置き、漸次多音に追ぼしたり。

●主篇に於けるを、お、ふの音は、便宜上悉く之を類音の初位、即

ちい、を、え音の部に編入したりと雖も、假字は力めて之れが區別を正うし、編者をして混同の過なからしむ。されど、とう、たう、へう、ひやう等の如きは、一々その假字に從つて部門を分ちたり。希くば、へうを誤つてひやうに竟め、見當らずとなして失望するなからんことを。

●同一字と雖も、多義のものは、各其意義に從つて部門を分ちたれば、往々重出の嫌なきを免かれず。編者諒とせよ。例へば、

突如(いきなり)の部)　突如(だしぬけ)の部)　突如(やには)の部)

の如し。

●元と外國語と雖も、今日我邦の世俗に普通なるもの、若くば其意義を假用したる一種の製作語等は一二之を採錄したり。例へば、

燐寸(マッチ)　高利貸(アイス)

等の如し。而してこれらに施したる假字は、皆、カタカナを用う。

●我邦、古來又の名を、言魂の幸ふくにとも稱ふ。乃ちあらゆる俗語雜辭を小冊子中に網羅せんことは、固より能ふ所にあらず。編者、それ一を識つて十に活用せよ。

明治三十二年桂月

編者　題

俗語と難辭

宇野秋峯編

い(る)

●いノ二

情人(愛人)

去ぬ

探偵(間諜。細作)

熬(炒)る

い(る) 二

尚一一度
一すこし

甚(頗)一ぞんざい
一すかない

卒(去來)

瀟洒(瀟灑。粹)

い(ゐ) 三

●い(ゐ)ノ三

春心(春情)
秋波
威張(阪扈)る
仔細(理由。云々)
弄る
一圖(一途)
什麼(恁麼)に
爭(怎)で
淹れる茶を

義齒
假髮
假瞳(義眼)
不知(不識)
日外(曩日)
寧そ(不如)
例
毎度
活地(意氣地)

猪頸
異に——氣を廻す
不懌(不快)な——顏つき——心もち
嫌惡(冷情)
抵辭(諷刺。怨言)
早晩(須臾)に
埋ける、

●い(ゐ)ノ四

情夫(藝人)
百方(種々)

活(挿)ける花を
飲ける——口
燻る
鴨脚(銀杏)
市虎(俠客氣)
熟蒸
歪(苦辭)

家格
雲布(兼絲)

い（ゐ）四

窓足（菜碗盃などの）
最濃（いとよに）
心肝（最愛）い
意地張（拵任）る
乖性（姦曲）
嘖（虐。折磨。囉唆）る
雄逞い
瞋らす（目を）
峙らす（肩を）
贋物（唆物）

最愛氣（冲幼）
勞（劬）はる
悪戯（悪作劇）
黥
嘻々く
倉卒（匆劇）
一廉（一稜）
恁な
曩日（日外）
頑固（執拗）

駄參（逸散。慕忽）
苛々く
焦（煎。燥）つ
多少
灼然（顯著）
從來（既往）
不可（不良）
悒（鬱悒）き
既望（十六夜）
紛紜（葛藤）

い（ゐ）四

熅（蒸）れる
突如（唐突。不意。卒然）
敦圉（發憤）く
事情（經緯）
氣息（氣調）
息促く
縮小る
辯疏（辯解）
口實
吩咐（命令）

い(ゐ) 四五

言種
坐作

●い(ゐ)ノ五

纐帶
逸早く
慘(可憫)しい
狎戯く
巫子寄(馮鬼術)
貪食(充慾)
起肩(峙肩)

因業(强慾)
菜豆

居長高
慌忙(多忙。繁徼)い
亨々
永遠も
合紙
懸命(賭命。決死。味犯)
活洗

坐行寄る
食客(寄食兒)
貪眠い
氣息(氣調)
推諉ける

●いノ六

一部始終(一伍一什)
慘憺い
無消息(無信)

●いノ七

い(ゐ) 六七

聘定(許婚。挿叙)
論破る
流言す
佔てる
居蹴まる

毎々(毎度)
好入來!
言瞞める

い　七ろ　二　三

毬栗頭
苦勞しい

侏儒
言謡へる

ろ

●ろノ二

無價（無錢）
露路

录（平。直。安）——にすわる
——が悪い

●ろノ三

蠟色
艫柳

呂律
碌に——口もきかぬ

●ろノ五

飛頭蠻
魯鈍（愚物）

碌々

は

●はノ二

傍（側）
跋何だか——が悪い
潑水（泥穢）
彈機

發端（最初）
纏頭
清洟（鼻）
既や

ろ　五は　二

は　二　三

這（跂。匍匐。爬行）ふ
榮（見ー出來ー）
華美
塲合（境遇）

●はノ三

賣女
零本
孔（酷。非常。藉甚）に
約（何歳ー何個ー）
切齒

鱧
沙魚
斜

魅す
礑と
督促（虐。督責）る
破烈る
呀と

漠然（漫然。曠然）と――した話
燦然と――明るくふる
眸（眈）と目を開く
濶然（寛）と廣くふる
裩襠
肆頭（尖端）
不作（穀類野菜などの
奮發む（金錢などを
喘（逼。過）む呼吸が
乘（乘機。發。郤合）む調子が

は　三

機勢（餘力。反跳。奇機）
發矢！
法被
外（脱却）す
退（遠慮）す其座を
刎る除き――
跳る飛び――
爆る散り――
拒絶る
告終る寄席芝居などが

baku ro su

は　三四

私(竊取)る上まへを
暴露す
袁彥道(博奕)
囃す
流行(時樣。風尙。時欵)
陷(濘落)る水中おごに
耽(惑溺)る色慾などに
消售る商品が
淨房(後架)

●はノ四

回箱(妓夫)
際限
陷擠る
嵌める
騙める詐り——
初物
些少(小數。零餘)
半端
忸怩(含羞)む

剝々く——はれる
眄々し——目ばたきする
奮發む
捗る
儚い——世の中
脆弱い——いのち
經營
伎倆(手腕)
披開る
碾く雷が

は　四

眄然——目をあける
問屋
發揮(明瞭。判然)
縹色
足談(足語)る
鼻梁
潛々く(泫然)——と涙をこぼす
悚々く——と懼れる
腹匐(匍匐)
魚卵

は　四五

零亂錢
敗衂――の体でにげる
逸（相失）れる
快口（快嘴）
躁（早計。失急）る
捷徑
聰耳
齒應
髮際

●はノ五

迅速（快豁）
逼出す
端折る
燥ぐ
罅發る
山茗
手帕
絆纏
斑猫

尊大（跋）い――――口をきくな
蠅帳（花漆）
鳩の貝（順禮。山伏。女巫。迷信者の懷中を覗ふ者）
拳飛ばす
撲殺す
侮蔑する
出意表

●はノ六

多謝！
捗々しく

は　五六

養花天
脫空す
異腹
飜弄す
禿顱
乱り落つ
仂ない
般若湯

は　七　に　二　三

●はノ七

愚直（狂直）

履物に（拒絶）する

に

●にノ二

鰯（玷。瑕瑾）

●にノ三

香ふよく——

臭ふわるく——

脂及の

嫣然（莞爾）

難い言ひ——行き——

纖弱（輕佻）

面皰

蹂躙る

●にノ四

諷はす心を——

膠ない——挨拶

覆轍

蹴躅（猶豫）

●にノ五

粘着く

●にノ六

入染（浸染）む

奔竄す

含笑く

収賄家

守錢奴（吝嗇家）

兀突

に　三　四　五　六

に　六　は　二・三

暴富
粘着

兀々（如龜々々）

は

●ほノ一

風致
掏摸
大言（壯語）

●ほノ二

點り（泫然）――と涙をこぼす

燈筒（燈罩）
盡す　汲み――　飲み――
壜酒何――

貪婪家

抛（放棄。不顧）す
淡薄（暈抹）す
嗒然
扣鈕（鎖袱）
哮（喟然）と――ためいきする
糢糊（濛朧）と――して見えぬ
慔と心が――する
恍乎（怳乎）と　のぼせて――する

●ほノ四

點々く

紕繆（放脱）
黑子（黑痣）
私得（外待。私貯）
老耄（老衰。老憊）る
熟氣
熱る
吼（哮）く

ほ　三　四

幾と――もてあます
――困つた

ほ　四

嚇(嚇)る
餘熟
大小(長短。廣狹)
文身(膚劃)
絆(羈)さる
省然
徐々——出かける
——はじめる
點々——穴をあける
豊腴(肥膩)又ぽつてり
山出

子然
盡力
骨格
大言家(漫言家)
厚朴
髦々(蓬々)
朗々(會明)
不過本
哭顔
箙々——折れる

露店
蓼々 皷の音
微り

●ほノ五

虚談
暗示(微見)かす

●ほノ六

滴々

●ほノ七

彷徨く

陰々(漠然。漫然。曖昧。模糊)
憯然(惘然)——我を忘れて——する
愚鈍(魯鈍。遲鈍)

北叟笑む

放散飛す

ほ　四　五　六　七

へ　二三

へ

●へノ一

臙脂

反嘔

遍縷

拙（庸）

●へノ三

爛醉（劇醉）る

窪（凹默）む

蔕 茄子。南瓜などの

總（都。一圓。一面）

剝（擘。掊）ぐ

不可

鉛泥

沈湎

●へノ四

周章狼狽

平身（低頭）る

狎戯く

歔欷く

箆棒

剽戯る

●へノ五

黏着く

へ　四五

裾裝

剽輕

攻擊（論破）す

拗折る

壓合ふ

涎焉――遊びくらす

偏屈

阿諛

へ　六

喋々

と

●とノ二

大尾（終局）

鈍遲（鈍痴）

迎（聘）るよめ。むこを

放蕩

退く

棲（栖）

私房銀（そくりかね）

苫（蓬）

莉（灼）

棄水（瀆）

伽（侍座）

等（曹。儕）私―

丁―とたあろ

太息

●とノ三

鈍い 火氣が

薯蕷汁

盪り

燃る

華表

長所

雀盲

動（左右。兎角）

と　三

響動

刹那（奇機）

亞鉛

搥と――床につく

哄然（嘯乎）と――笑ふ

紛（擾。慕然）と――押寄せる

沛然（油然）と――雨ふる

搥乎――と座る

獨鈷

と　三

怒鳴る
誰方（何誰。誰君）
肚胸
何卒（覬希。悃望。嘱望）
磐膠
動悸
何須（奚關）
礦粉
華主（主顧。華客）
木賊

毒味（試嘗）
縕袍（厚袍）
迚（擂）も
唯在る
底止（際限）
吃（謇。訥。嗫默）る
點す
案外（不圖）だ
甚麽（恁麽。什麽）
緞子

●とノ四

綠林（綠林兒）
昏々（虚々）――ねむる
蕩（嬈）る
曹乎
左に右（兎に角）
躘躘
僞爲（佯爲）る
扳附（阿附。歸向）る 目上の者に

と　四

寒粟子

體度（動作。擧止）
物議（物論。風評）
攀く――島がない
欵待
斡旋（媒介。推薦。紹介）
誰何る 人を
哄く
急遽（倉皇）
篤（熟）り

と　四

澤山（豐富。富饒）
惕息
終々（結局）
胴慾
胴揚
經濟
毒言く
擾々（擁擠。雜遝）又どか〳〵
左や右う
戸迷

濁醪
牀瘡
淡紅色（朱鷺色）
恂々（悸々。悸々）
周章
衝跳（悸）く胸か
時榮く
滔々——やつゝける
小官人小役人を戯にしかいふ
妙齡

限度（終結）
剝喙（丁々）——戸を叩く

●こゝ五

嬉戲ふ
切思（思迫）る
體度（擧止）
崇殺す
配合
取緊（壟斷。占領）る
左思右慮

滔々——流れる
闃々太鼓うつ音

偶忘（遺忘）
胴魔聲
心太
徹頭徹尾
溺死人
左眄右顧
淪胥

と　四五

と　五六ち　二

暗黑い
丁々拍子
闃然嘈然

●とノ六

左か右か
稜々しい

ち

●ちノ二

掏摸

最後（結局。徹底）
頓狂（頓興）

斑々（點々）
筋斗（斤斗）

些（聊）

直（直接）
話中（語間）
禿（耗）

●ちノ三

泰然と――して動かぬ
眤（凝）と――見つめる
身柱毛
本色（特質。特性）
點
饗應

ち　二三

少婢
鏗然――からり
狆

矮鷄
阿爺
粽
私窩子
扯斷る
正道（正當）

端然と

ちノ四

艶書
不日
苟且――した事
暫と（一暫）
少時（暫時。霎時。一寸。鳥渡）
胴衣
地動波動
地鞴（頓足）又ぢたゝら
眤近
現晦く――見える
霏々く雪が
歴亂く落花が
狼藉る
註文
苛々く――痛む
逐電

嘲弄（冷弄）す
恰好（恰似）
適（會）――その時
灯花
丁（整然）と
血塗（血淋漓）又ちみどろ

ちノ五

絲毛
不潔い
嬉戯
微々く
宿痾（痼疾）
心火（嫉妬。妬悍）
沈香
約り
秩然（整然）
樗文絹
但見（暫見）
聶爾又ちよんぼり

ち　五六り　三

小賢
猪牙船
咄嗟（刹那。頓沛）
亂髪
撩弄する

●ちノ六

往々（時々。刻々）

り

●りノ三

茶厨
牴牾（齟齬）
金錢
傭工

鄰次――流れる

立派（美麗。抜群）
示威

●りノ四

凛々しい

ぬ

●ぬノ二

髹漆の
塗土の

●ぬノ三

り　三四ぬ　二三

綸子（花綾）

饅膾（饅茹）
紈（光綾）

ぬ　三　四　五

滑（倥呆）る泥の水おどの中へ
曠る時機を失ふ
吐かす

●ぬノ四

土蔵（塗籠）
泥濘
鈍呆

●ぬノ五

推嫁る他人に罪を
綿密（用意周到）い

突如と
悠然と
白刃（露刀）

逃酤（密醸酒）
鷺歩（潜蹤）
文綉（刺繍）

温鳥（煖鳥）

る

●るノ二

不在今――だ

●るノ三

坩堝

●るノ四

外出後

を（お）

る　二　三　四　を

留守――を頼む

を(お) 二 三

●を(お)ノ二

機會(好機)
澱物(濁滓)
俺(乃公)
異(妙)

●を(お)ノ三

未矣金ば——いのちも
下(降)す上より
墮(脫)す胎兒を
研すわさびなどを
隔く間を
蠶
敢爲——が強い
卸す商品を
未生(恍惚子。未通女。黃花女兒)
記憶
經驗

蓬(髦)
媒鳥(囮。遊鳥)
成丁(壯丁)
俠氣——を立てる
陪從
機檻(陷阱)
怯氣(畏悸)
零落(落魄)
豆渣(雪花菜)
十八番(定文句)

を(お) 三

傍觀
女將(主婦。內儀)
御寢る
所天(良人)
噫氣(噯氣)
袵又おくみ
間食
溲器(虎子。馬桶)
凸額
濕布(襁褓)

を(お) 三 四

粥湯

怨念 生靈の

●を(お)ノ四

俺們

惶々く

寛濶(寛裕)又おほまか

尊大(傲慢。倨傲)

大熟心

面從(諂媚。阿諛)

鮪

戰々く(竦然)

恐喝(威嚇)す

從容く(晏如)

沈靜(泰然)く

乙地甲地

風琴

瞻戀

提箭

穩當(妥當)

醜婦(隴產。三平二滿)

挑唆(慫慂。煽動)る

會葬(葬式)

敎はる

危懼く

企及(出右)く

須臾(斯須。早晩)

億劫

出奔者(脫走者)

顫(戰慄)く

を(お) 四

臆面

加旃に

散財る

阿轉婆(鹵莽)

頗々く

終極(結末)

呱々(曙々)

阿容々く

風采(風丰)

艶妝家(嬌飾者)

を(お) 四五

拾歩(徒行)
憤(怪)える
存念(所存。所見)
俤

●を(お)ノ五

寛量(大度)
公然
健啖(狼餐餐)
磊落(不羈)
温順(恂厚)しい

相貌(容貌)
放遂(蔡)す
穩便

密室祈禱
探偵(細作)
蓼腰
御爲仆
魘れる夢などに

遲滯(粗慢)る
鈍しい
逐斥(放逐)ふ
强ける
有仰る
嬖人(寵人。內嬖)
多辯(饒舌。弄嘴)
修飾

●を(お)ノ六

大言壯語(廣言)

を(お) 五・六

面瘁
所思(思區)
恣意(存分。思儘)
戀着く
好意匠(名案。創意)
忖度
意獻
絶念(絶望。斷念。割愛)

默許(默諾)る

を（お）六、七　わ　二

女丈夫
拗折る
掩被せる
愚戯しい

●おノ七

不畏不臆

わ

●わノ二

光棍（棍徒）
畏（係蹄）
三足烏
陪食（陪餐）
嘲哢かす
過慮

事情（情實。理由）

●わノ三

割賦（分賦）
號（嘩）く
俺（乃公）
故と（故意。假意）

●わノ四

親密（無別）き――――交情
無理き――――願ひ
壯佼（壯丁）
睢恣（拗強。拗捩）
戰々く（悸々。兢々）又わくく
無難（容易）い
頑悪

●わノ五

わ　二　三　四　五

沒理漢(沒分曉的)

か

●かノ一

圭角(言葉に——が立つ)
嫌(嫌)
全然(眞個)——(いくぢ)
格
拭(拂。去)む(はなを)
恁(斯)

早く(與かどを)
搔(抓)く(爪にて)
末了(餘。未喫)(飲み——)(食ひ——)
次(出——)(歸り——)
支ふ(倒れぬ樣に物を——)
水手(篙工)

豎子

●かノ三

皆無
庇掩(愛護)ふ
岸破と
齧る(鼠が)
耗る(をやぢの經を)
懸る
仗る(親が子に)
着手る(仕事に)

孩兒(嬰兒)

絓る(糸で)
媽々
騙る
固唾(乾唾)
堅氣——の商賣
氣質(商人——)(藝妓——)
嗄る(聲が)
擔ぐ

か　三

迷信ぐ
羯鼓
夙(豫)て
慳(協)ふ
廓然——とした眺望
鏘然(戛然)——と音がする
飜然(脱然)——と變る
縈む
虚然——と明いて居る
衣兜

搆造家の
姿勢身の
叺(裏子)
貳價
首掉
旁
搗(雜)て
輕匆(輕卒。卒爾)
翳す
痒(癢)い

紙袍
殕(黴)る

かノ四

海賊(白浪)
皆暮(全然)
搔卷
皆目
容貌
稜立つ目が
磕々

髢(假髪)
眊(眯)む

か　三　四

傭ひる
纖弱い
偏僻
戛々下駄の音
兢々——ふるへる
肩褶
我他彼此

左右（東西）
落膽（失望して）
困憊（疲れて）
渇々く（貪食。充慾）
低廉
敵はぬ（到底――）
呵々く（哄然）――と大笑する
辛々く（命――）
嚅々く（――音がする）
嘘（揶揄。調戯。挺）ふ

關捩（機捩）
破器損具
蹇げる
云々く（斯々）
强勢（剛勢）
管（關）はぬ
魚圓（蒲鉾）
陽焔（野馬。遊絲）
賒賣
欠落（脱走）

業肚
感化（同化）れる（人の心に）
疵れる（漆に）
閹せる（ふたを）
虚託
襲ねる（衣類を）
嘖々く――（小言をいふ）
齊負く
凍冷る

●かノ五

我張る
招牌（看牌）
提灯
號衣
楫師
遮眼燈
勘着（暗會）く
手燭
岩疊――な（つくり）

摑ぐる
誘拐（拐帶）す
輕逸（輕佻）
連累（連及）
搔抓（抓搔）ふ
欺罔れる
虛喝（虛勢。虛威）
全然（眞個）——だめだ
白地藏
陰蔽

窮奇
對座
攪亂はす
攪和せる
嚼紙
跪まる下座に——
謹諾まる仰の趣——
誤認（誤信）る
神宿びる
枕探

かゝ六

自用車
高慢的（不遜的）
業を沸す

かノ七

詆交り小兒の

よ

よノ二

縒る糸。紙などを

魯魚誤
神信心（神敬虔）

搔繰棄（搔棄）る

可矣！

よ　二三四

舍諸――にする

止（舍）す

●よノ三

感快る

竦立つ身の毛も――

夜延（夜業）

深更（深夜）

流盻

寄來（遣）す

判（解。氷解）めた疑團が

葦簾

豈夫（豈敢）

便宜

●よノ四

倭儈（蹌踉。蹣跚）

踽（蹌踉。蹣跚）く

疲曳よたく

尪弱

勁彎く

終宵（夜一夜）

●よノ五

爛醉漢（酒酒家）

譫語（囈語）

設令（藉使）

四方八方（四表八表）

横面（側頰）

甦活（蘇生）へる

た

●たノ二

髢

箍（箍束）

よ　四五た二

尋常（凡）

無價（無錢）

た　二三

謀々――をこれる
過(經)つ月日が
稀――に來る
有用(利益)

●たノ三

逮夜
攝養(自愛。加餐)
把稿
俗諺
炭團

不要(無益)
虛託人を――につかふ
煎汁――がうまい
山車(山鉾。樂車)

怠い又だるい
簇(聚)る
消息(音信)
倚賴(賴托)
崇る

戮む石かごにて
整(處理)む世帶を
殺む
疊紙
三和土
切(恒)つて
墮落
充滿
汚(塗)血――泥――

●たノ四

た　三四

未滿
撞と
道戲(滑稽)
騙(欺)す
縶る
採る
矯る
貯蓄(蓄積)る
多度(饒多)

た　四

體無（滅裂）
退屈（倦厭。無聊）
梵妻
莫大た
囈語（譫語）
僵（倒。仆）れる
側聽（偷聽。窃聞）
斷物（禁物）
權高（尊大）る
驕兒
彳（佇立）む
質（訊）ねる
湛然（充分）
屋賃（房錢）
漫々（遲緩）
滴瀝（浙瀝）――と流れる
倦乏（舒遲）る
滿腹
南瓜
放蕩

唐棧
陶宮
點々
時稀
俠客
代辨（負擔）く
竹姫（竹夫人）
摟住く
長吁（長太息。啞唏）
溜髯

た　四

躊躇（躊躇。逡巡。遲）ふ
退縮（辭易）ぐ
唐突（突如。突然。不意）
醵出
愼（節。用意）む
謹愼（用意。節度。素養）
補充（塡補）
漸次（次第。寖）
丹念
湛納

た四五六

無言

●たノ五

幇漢
佇立まる
正体ない
布置
品評
亂次（乱脈。嬾惰）い

●たノ六

甜言（誑文句）

丹精（丹誠）

陶然――に醉ふ
恃（頼托。倚頼）しい
禁（耐。堪）らない
煽動ける
爨妾

瞞着かす

波動染

●たノ八

獺皮包

れ

●れノ三

歴々――とした身分
櫺子（籠窓）

●れノ四

了簡（料簡。量簡）

た六八れ三四

漁郎（白水郎。海士）

そ　二　三

そ

●そノ二

反る

殺ぐ

●そノ三

披々（そろり）——ご着流す
——こした身裝

加旃（たれ）に

蕭（逸。外）るゑそらす

漫（坐。不覺。無端）

私（竊）と

悚然（凜然。洌然）と

偽寢（豹睡）

擧動（體度）

四邊（近邊。座側。周圍
前後。四下。左右）

約（そなか）——の年頃

因（乃）で

内瘴（そこひ）

●そノ四

徐々（漸次）

曳從（曳地）——ひきする

陸續（絡繹。接踵）——出て來る

雀斑（そばかす）

嬉々（氣が——する）

傍杖（相伴）

習々（蕭颯）

那麼（那樣）

妖婦（たれぬしや）

倉皇（そうくさ）

散亂（そ）ける

外方（側面）

全然（宛然）

素首（くび）

薄媚（けな）い

そ　四　屬魂　倉皇く

五　蠶豆　蒋

六　僞聽（妄聽）　粗忽（輕佻）

七　踴躍——喜ぶ

●そノ五

教唆（嗾）す　袖にする　見棄る事

喔呀　賄賂（芭且　貨賄）又そでのした

●そノ六

肅々

●そノ七

存處近邊

つ

●つノ二

剩錢

拄（支）く　頰杖を　手を

吐く

注ぐ

●つノ三

衝と——座を起つ

爲（强○競）金錢——　腕——

交（調味）食物の

補綴

そ　七　つ　二　三

節次

つ　三

圖星(目標)
窄袴
狡猾(狡獪)い
痞(疼)
遙(杳。優)と
葛籠
捻(捫る)
難堪い
一齊(一列)——こならぶ
氷柱

旋毛——ゞ曲つて居る
搖籃
噤(拑)む
渾成(尽め)金銀——
終極(畢竟。究竟)
迫(窮。谷。塞)る
跟(踪。尾)ける
燗(煖)ける酒を
嘗ぞ——見たことない
約(意。心算。豫想。存念)

忖(忖度)る
昂然(怫然)と——すれる

●つノ四

掩障
蠹々——と立つ
堆朱
條理
緩漫(等閑)
緩慢(怠慢)る
傯々——と進む

つ　三　四

甚(極)と
直截

無情い
内眷(配耦)
諷詆(譏刺)
體軀
蹲ふ
俗僧
倩々(熟々)

つ　四五

捏る
兀然（徒然）
鮮潤
躓（趺）く
摺（爪繰）る
足尖
儉約い
乘む
劇醉（爛醉）

●つノ五

膽大い
渾濡（全濡）
呟（獨語）く
刺痛く
迫寄る
不知不識
侃々――言つてのける
直々――行く
豊腴

羊腸（九折）山路の
可愼（可羞。翼々）しい
美人局女の詐僞師
相貌

●つノ六

突慳貪

ね

●ねノ二

螺釘（螺旋）

つ　五六　ね　二

追從
綵花
滿（要。無趣。索然）ない
增長（僭侵。僭越）狃る

厚顏（破廉耻）しい

邂（徐行。緩歩）る行列などが

寢惚
寢刄
寢强（煩請）る
齒（鄙吝）い
根柢水の
覘ふすきを

●ねノ三

狙ふまさを
堋（栖）
寢衣
評價（估量）
摧直（折價）る
音調

●ねノ四

朝々（覘ふ）
俟ける

反側（轉側）
晏臥る

絕對（全然）
饐い
偃臥ぶ

●ねノ五

捩伏せる
揑造說（蜚語）
寐驚（寐悸）える
寐亂れる

●ねノ六

絮語（甜語）

藏匿（韜秘）
根刮（悉皆）
孕

韜（粧。粧處女）ぶる
鼠鳴（喞喋）
念晴（洩憤）

板厨

な

●なノ二

風体(風俗)
飲る——口
交情

和ぐ風。海おだか
絢ふ繩を
喃又なう

●かノ三

癒(快。治)る病氣が
矯る根性が
中心

浮槽(決水槽)
斜坡道などの
崩頽雪などの

拘泥む
均(平)す
有名(有數)
頑癬(白斑風)
大官人(鯰公)高等官吏を戲にしかいふ
承塵(楣間)
別離

●なノ四

秘密
強(幾金)——何圓

殘懷(餘波)
萎(痿)る
何有(何爲)
鮮す
親む
相識(知己。馴染)
藏鉤(猜拳)

何彼
形態

な　四五

癩病人（天刑病者）
果然
可成的（可及的）
牙商
懇（却。眞。頗）
月中人（月下氷人。氷翁）
納得
聚毛（胲）
慰藉（慰勞）

●なノ五

娛樂
虛誇（半粹）
鈍刀
懇
忽諸（等閑）
蛞蝓
舐（餂）る
盈々〳〵と注ぐ

長坐
懷しい
和解（調停。講和。釋恨）
無賴漢
生叭

●なノ六

曉暝（獻欷）
晡後

●なノ七

生半熟

な　五六、七

牛通（懇）
薙仆す
柔革（韋）
濟崩
半面學（白面書生）

●なノ八

七廢八興

ら

●らノ二

埒

●らノ四

樂陶（樂窯）

亂的（紛雜）

●らノ五

萇苧

卵塔（亂塔）

蹂躪（蹂）

む

●むノ二

無益（徒。贅。冗。蛇足）

偏（不正。不序）

●むノ三

野心（非望）

先方——が其氣なら

慍（憤然。艴然。勃如）と

駙馬

眞——になつて怒る

無手と

訥噬（沈默。寡言）

安（叨。濫）

む　三　四

躁妄（暴虎。躁卒）――な人だ
汗瀆（汚穢。穢陋。汙醜）い
剝肉あさりの――
毟る毛。羽かごを

●むノ四

嘔逆（欲嘔）く
煩嘔
贅辯（冗言）
激憤る
木訥漢

毛る草。根などを
拗るかき――
撫ひき――
噎（隘噦。咽嗚）ぶ又むせる

蠕々（蠢々）
勃々（蠢々）
碧（腴）り
麥斗
天眞（露骨）

蠹蝕
無性

●むノ五

疎妄又むてつぱう
肪骨
閑談（白話）
感痒（覺痒）い
難しい

●むノ六

錯雜（無次序）

土藏破

險澁しい――顏色
佶屈しい――文字
危篤しい病氣が
不滿家
忪悸（心動。驚悸）

む　四　五　六

忽怒（易怒）つ

む　六　う　二　三

汙瀆（穢陋）い

う

●うノ二

可感（優し）――やつだ

空虚（孔・窩）

獨活

汝（豎子）

非そんな事をされて怒らぬのは――だ

●うノ三

渦

初心

諾！

有卦――に入った

技倆すごい――だ

蓊蘊（煩悶・懊憹・欝勃）

胡亂――なやつ

遊冶

側目（上竄）

潤（霑）む

迂濶（不覺）と

照應色の――がい〜

恍（現）

中棧敷芝居の

疼（楚痛・酸痛）く

曲折（起伏）る

う　三

喻（嘹・呻吟・嗅咻）る又うめく

旨い食物

巧い藝が――仕事が――

金青色（欝金）

茄（蝶）る

胡散

亡（失）る

諾と――返事する

吽と――言って倒れる

饒（多）と――と盛り上げる

う　四

●うノ四

狼狽
浮波（躁）つく
後妻（繼妻）
囈言（譫語）
昏々（假々。虚々）
優曇華
自負（自惚。自信）
懊惱（煩擾）い
漫然（虚々。徒々）——す
恍然（恍惚。菅然）
偶然（漫然）——出來た
無心（虚心。不注意）——として——話す
勃々
淡然
起伏（高低。曲折。參差）
頷（垂頭。點頭。首肯）く
覺さる
正反對

麗々（遲々。融々）又うらゝか
反應（内通。通款）
俛（俯伏）く
雪花菜（豆滓）豆腐のから
贖出（贖回）す
保證ふ

●うノ五

半覺（半解。纔識）
内訌
良人（所天）

う　四五

拱手
忸怩（踟躕。逡巡）
豪駝師
愚鈍
仄（側）——聞いて居る
雲紗
更衣
報酬ひ貰物の——又おうつり
虚氣者（痴漢）

う　五六七

尙若い
悵しい
盈(滿)ない——話だ

●うノ六

任他(放任)つて——置け
昏々(虛々。假々)——と眠る
忡々(沈々)——と病みつく
有爲轉變

●うノ七

心羞しい
有頂天
薄片
影護い
陰匿い 惡事をして
初々(稚々)しい
迎梅雨

の

●のノ二

音聲 あの藝者は——かいい
飲(啜。嚥)む 水。酒などを
咽む 聲を
喫む 煙草を
服む 藥を

●のノ三

痴漢
呑む 丸のみにすること 人を——でかいる
匿(藏)む 短刀を懷中に
熨斗(長鮑)
伸す
惚話

の　二三

の　三　四

逆上(上氣。上衝)
不絕(無間斷)
暖簾(布幄)
突然(不意)

●のノ四

謠(自惚)ける
喉
遲々(飄々)
飄然
辭退(退引)
去(退)ける
踣(伏仆)る
疆顏的
暢氣(長閑。融和。悠然。平然)
遊惰
仰反る
仰樣
伸々(暢然)
蹣々

伸張(偃蹇)る
匐る
知悉(理會。合点。會得)

●のノ五

野倒死
加旃(乃至)

●のノ六

紆々
伸暢心が
遷延時が
酒客
爛醉漢(腆忍家)
腆忍(霑醉)れる

●のノ七

轉輾反側はる

の　四　五　六　七

悠々閑々

く　二　三

く

●く　ノ　二

舌頭（その――で だまされる）

部類（どの――の方だ）

庫裏（寺の）

刳る（木を）

●く　ノ　三

直（頓）と（又ぐつと）

黑睛

共謀（同盟）――（はたらく）になって

愚鈍

競（かけ――）

（にらめ――）

啁――（のれも出ぬ）

適はぬ（氣に――）

烱（焚。熟）る

諄（冗）い

迫懇（口挑。口說。口寄）く

門暗（稍）又くろゝ

裏む

共（與）

歪（幃子に――が來た）

與れる（人に物を――）

昏（昧。晦）れる（見るに目も――）（思案に――）

顚（狂。逆）る

奮然と――（眼を立てる）

く　三

哄（呸）る

餘波（宴會などの）

破（頽）す（面相を――）（座を――）

換す（金錢を）

耳門（子門。戶。窓）

誄詞（弔慰）

繈る

苦艱

口調（口吻）

楔子

く　三四

誹謗す
抉る

くノ四

鯨飲（呷服）
熟錬者（伎巧人。粹人）
烏樟（小楊子）
齟（咥。嚙）える
娓々（喃々。訥々）
禁口（緘口）
詼諧（諧謔）

口舌（苦悩。紛議）
澱む――だ色

口健（饒舌。多辯）
口吻
舌頭――ばかり
巧言（辯口）
唇頭（口角）
餬口（生活）
腴々――ふとつて居る

盱々――とした目
繰言（周諄）
旋々（旋轉。宛轉）
圓座
花燭三味線の――の胴
嚇と
怏々（鬱々。怫々。憂悶）
斃（死亡）る
草臥（疲勞）
齟齬（牴牾。支吾）

く　四

懇々（悃々）――もたのむ
寛ぐ
萎靡
屈詫
頽れる泣き――
沸々――と騒る
喑々（娓々。諄々）――言ふな
躊躇（逡巡。踟蹰。優柔不斷。因循姑息。首鼠兩端）
皖り（明白）
熟（困）り――睡る

く　四五

搖動く
搖々(動く)
眩々(暈旋)する　目が——
又くらくら
鮑々——いびきをかく
莎繩
恨悔(憤激)い
噫

●〳〵五

反言
口號

鬱々(怏々。悶々)氣が——する
竊取(私占)る
繕る
吃々(竊々)——笑ふ
櫟(擦。格指)る
爛(艶。艶)る
駸々——先に行く

反復す
畵作(經營)

崩折れる
行(能。滿)らない
粹客(大通)

●〳〵六

愚弱々々
瓦墮々々
瑣々しい
瓦落々々(磑碾)

●〳〵七

五一三六

く　五六七

食失(食逸)
素飡(徒食)

解願(酬恩　報賽)
括枕(絹枕)
愚顚々々
奇痒(肉癢)たい

や　二三

や

●やノ二

不粹
所天（亭主）
遣（與）る人に物を——
爲（行。仕）るさう——がいゝ
學る何を——つもりだ

●やノ三

突如（不意。卒然。唐突）
妬く
僥倖（投機）——を張る
自暴、自棄。孤憤）
窯九谷—清水—
搗婆

策士
遣瀨（遣施）
徐
旋（軈。乃。頓）て
安（叨。濫）
墨斗
拳固
纔（辛）と
憔悴

●やノ四

や　三四

發憤
委す愛身を
省す書法を
俏扮す身なりを
粗質
癖（癖）金さへあれば飲むのが
あの人の—だ
鰥男（曠夫）
寡婦（孀婦）
喝采——と賞める

や　四五

亭主
雷同者（野治馬。彌次馬）
献酬（盃の——　贈り物の——）
經營（融通）
猶且（依舊　依然。同然）
厄介（係累）
嬴（窶）れる

●やノ五

聒（姦。喧）しい
方纔と

嬢娜い——姿
有情い——心
容易い——仕事だ
臀勃（懊懊）
清癯（痩軀）
頑嬰
輕々（徐々）

無能漢（不中用。才惡）
家婦

自暴肚
庸醫

●やノ六

成遂せる
紛々擾々

ま

●まノ二

如意（任意）
密夫（私夫。情夫）

や　五六　ま　二

瞟眼（角瞟。欹目。邪睨）
病耗

邊幅ぶる
破れ被れ

權且（請且。先）！
正理（柾）もくめの

ま　二　三

肉刺　足の底に――が出來た
了髪　遊廓などの少婢

●まノ三

俊僧（賣僧）
正面
絡ふ
宛然（全然）
擬似（摸倣）
不味（不美。不旨）い　食物が
拙（劣。不巧）い　術技が

壯健（健在）――で活きて居る
忠實――に勤める

焠兒（燐枝）
睫毛
利得（利益。利潤）
典（入質）る
眶（目盞。瞼）
豈夫（豈敢）
眞摯――な人だ

清醒――では言ひにくい
目戍る

●まノ四

前平戸（櫺戸）
間拍子
目蕩（假睡）む
缺望
祈子
間懶（目倦）い
轉借

老成る
無障（容易）

轉貸
木天蓼
再度
股下（裡膀）
陪臣
尤物
眞額

ま　四

幾望（十四夜）
眞個――の話だ
晴眸
耄碌
摸擬（擬物。僞物）又まんぱち
雌雄（輸贏）
塗（涴。淪滑。媟汚）れる
眩（羞明）しい
倉皇（狼狽）く驚く形
彷徨く ぶらく歩く形

周章（狼狽）
忽諸――しては居られない
顯然（宛然）
連及（累座）
謔語人（饒舌家）
瞶ぐ
禁厭（呪禁。呪術）
耿々（兀々。墨々）
目勝（慢勝）
眞更（一半）

兀然（耿然）

●まノ五

豐頰
辯疏（陳辯。分疏）

●まノ六

天運
眞正中
偶中
似眞的

●まノ七

ま　四　五　六　七

狗盜（扒手）

驀直（驀地）
柴棍

眞面目爲る
謔浪す
滿偏なく

ま　七　け　二　三

不負魂

け

●けノ二

吝嗇あいつは――だ
卑劣そんな――お魂性
不祥（非難）――をつける
負傷（痍）

●けノ三

嘘嗒――として居る

怪我（錯誤）――にも言ふな
――の功名
淺量（亞客）
拇戰
驗（功驗）服藥しても――がない

暗會る

長裙
毛布（氈子）
曖氣
健氣
難（貶。輕蔑）す

●けノ四

京鴉（僧侶）
毳立つ
蹋（蹴蹋）す
氣疎い

爛い
稀有な
怪訝
氣振（氣勢）
毛竅

烽缸
烽炭（麩炭）
假病
繭緞

け　四五六ふ　一二

慳貪
袋戸棚

●けノ五

窩子

●けノ六

歴々しい
消魂しい

ふ

●ふノ二

譴責
立翁――で打つ

嗾ける

業々しい
慳ゐ發露

不調（不諧。破裂）――になる
偶然（不圖）
態（風）みやこ――
　　美しい――
爲知ちぬ――
　きかぬ――
經久し――
　何日――
冷遇（薄待）る

●ふノ三

飄然（突如）と又ふつと
斑點入
鐵葉（白葉鉄。馬口鉄）

ふ　二三

爲（修。裝）る學者――
痴鈍（魯鈍）
髪垢（雲脂）
衩着物の
欵冬（蕗）
曲調（音調）

腑虚（痴鈍）
蒸すいもを
吃（喫）すたばこを

ふ　三四

飄然
眄らぬ（わき目も——）
耽る（物に）
老る（年が）
闌（更）る（夜が）
粗野（粗鹵。木訥）
狠（慍。悻）る

ふノ四

稾簫（蒲）
瞻（眄）く
符牒（子號。暗號）
憂（憂。咽）ぐ
拭巾
愍然（憫然）
襖（衾）
紙門
過賣
顫る

戰々（慄然）
輕浮（柔軟）
拂然（斷乎）
嗷々（——小ごとをいふ）
拂底
欸乃
吃水
剪絨
倏忽（突如。忽然）——（氣になる）
搖曳——（あるく）

ふ　四

浮浪々々——して居る
玻璃罎
鞦韆（半仙戲）
風鈴（簷馬。簷鐸）
風態——の怪しいやつ
封袋（包の——）
風帶（鷺燕）（掛軸の——）
膨脹る
惡謔（狎褻。挑戲）る
孕々

ふ　四五

類織
不爲体
無精（懶惰）

●ふノ五

風聽（吹聽）披露
豊腴
袖手
振釋く
廻顧（回首）る
再發（瘧）す病が

芬々――かをる
忿々――おこる

振拖る
古董（骨董）
陳腐い
腑効ない
宿醉
亂打く

端的（唐突）に
吊懸がる
垂下げる
風た利（利た風をもちつて）

●ふノ六

層波臉（重華）
佛頂面

●ふノ八

不承々々

●ふノ九

ふ　五六八九

太脛
吹賞む
蹈破く
沒好果

眞率（木疆）

ふ九こ三三

綘死（ぶらんとわらじやら）

こ

●こノ二

棊子（象棋の）

杜（三味線の）

雑還（肩摩。擁擠）む

●こノ三

這奴

靴（桃牙）

雑（何も彼も一にする）

漉（濾）す

建水

零す（水を）

歎（述懷）すぐちを

鐵架（鐵鴨脚）

抉る

小腋

紙縒

火燵（火閤）

林響（谺。谺響）

雑（混淆）

玻璃簦

絶命（物故）る

こ三

零賣

壁骨

僵（倒）る

沽券——がさがる

叱言

鮫（腐敗）る魚のくさること

惚（腐敗）るほれること

狡猾い

挙る

凉爐

ヒ 三四

這般（這麼）

●こノ四

栓木
遊民
輾々（轔々）車聲
段々（疋々）雷の
胡々（猫の喜ぶ聲 轉じて人の喜ぶにも用ふ）
轉々——臥て居る又ころり
硬（强直）る
競々

鬼臉
註（注意）るあらかじめ
斥（拒絶。謝絶）る要求を
傳語（囑言。傳聲）ことばの
依托（囑托）品物の
俺們
作聲（擬聲。假聲）
混雜（紛雜）

徹る ほれ身に
今後（向後）
云々（東西）
左許（小大）
刮去（挠）る
密々
粉灰
悄地（私り）
躍躍——出掛る
濃厚

ヒ 四

過般（曩日）
怺（堪。禁）へる
勾配
尋常 みなりか——だ
紛（瞞）す
縷々（靦縷）
諂佞者
阿諛る
未亡人（後室）
饒多（豐饒）

こ　四五

歡心（旦那の――をとる）
恐悅（大うう――だれ）
顆顆（蟀谷）
牽强（附會）

●こノ五

粘着く
幹開ける
小軀
素飧（徒食）
諂子

打扮（扮裝）身の――
兄章（女姑。大姥。眷兄 小姥。眷弟）
數々然（間々）
蓊鬱

清楚
上衝げる
牽强ける
魂性

●こノ六

迷信家
造次（顚沛）――も忘れはせぬ
心寬

●こノ七

言語道斷（世に同斷と書くは非也）

江（ゑ）

●ゑノ二

鏤（刻。彫）る

こ　六　七　え（ヒ）　二

米淅笊
金輪際

え(ゑ) 三 四 五 て

衣行

●え(ゑ)ノ三

偉(豪)い

●え(ゑ)ノ四

酸い——いもだ

畫趣

●えノ五

依怙贔負(偏頗)

て

宛(挟)る

榮曜——に世をわたる

那個物

衣紋竹

●てノ二

木偶

●てノ三

出初(初煎)番茶も——

簡便(安直)

手絡(鬘の

蕩然

忸怩(失興)る

手練(詭術)

憑託(貪縁)

て 二 三

手水(淨水)

上圃(上厠)

銚子

曲調

語調

術數(局計)

點方(茶の

て　三四

徒手（空手）
輩（徒）
手巧（敏腕）

●てノ四

緩（寛。鈍）い
縁索
隨口（放語）
天邊（頂上）
必定（切當）
瑩々——光る
浮露
各自——の勝手だ
自初——話にもならぬ
踽々——あるく
手藥煉
手信
麾ぐ
偶奇
手套

凸凹
迅速（快速）
顔面
手慰（手愛）
自初——だめだ

●てノ五

爲躰
補鞋工
手甲摩る
田縉（田舍縉士を指す惡口電信。田縉國音相通ず）
手傲（戯拵）
轉軫三味線の
賓縁（憑託）
初減
轉磑味噌
邂逅（撞見）す
打擲
乘機く

て　五六七あ二

花生子（無爺兒）
偶意（作意）

●てノ六

傳法肌

●てノ七

掃晴娘

あ

●あノ二

異―なことをいふ
淦舟中の溜り水

閼伽梵語にて水のこと
仇敵（敵讎）たを濁るは非也
徒（冗。贅。無効。浮虛。）―な浮名
婀娜―な女
那

●あノ三

文色（黑白）又あやめ
高利貸
請了（然者）！
霽る雨が

あ　二三

瑕瑾
阿魔（匹婦）
目的（的中。豫算）―がはづれた
信用―はならない

推測（判定）大凡の―がついたか
抵（諷）る人に言ひ―
中る思ふつぼに―
毒に―
挑る扉くかどうか―つて見る

あ　三

測る そろばんで一つて見る
取暖る 火鉢に——
渾名(綽名)
可惜(堪愛)
他—人 —心
那方(彼處)
呀と
呆氣
胡座(趺座。結跏)
案倦(飽倦)む
喞(叭)
戯弄す
鈍(緩。寛)い
扇る
呷(鯨飲。仰飲)る
水泡(泡沫)
法外(無法)
和える 菜か——
目途(當所)
佔る 言ひ——

蛤蜊
求食る
漁る
艤板 舟より陸へ架ける板

あノ四

挨拶
愛想
反對(轉倒)
後繼
乙地甲地

あ　三　四

持(對)
遄(躁)る
汗瘡(暑疹)
尋常(多種)
現實(歴然)
有平(氷絲糖)
青涕
胝

あ　四

倉皇(焦燥)
爾來
那個
適れ(天晴)
註文
四阿(四柱亭)
概略(梗概)又あらまし
齷齪
肖似(感)る
曖昧

狎(嬌)える
淡鹽
寅酉(朝夕。旦暮)
浮雲(危險)い
膩氣
佔戯又あてくら
憑據——もないことを云ふ
臆說——こ何やらは先からはづれる
淺陋(淺近)
呆(惘。瞳着)れる

斷念(絶望。徹諦)
應(遇)ふ人を
配(添)ふ物を
跫音
相生(連理)
七首(短刀)

あノ五

愛嬌
倀幼(懵)ない
退却(逡巡)る

交綏(交退)兩軍——する
姤引(會合)男女——する
浴(灌。潑)せる
汗袗
荇菖
被中爐(脚爐)

佩荷い
蒼白める
明々地

あ　五六

掃垢（皮刷）
當然（至當）
不滿足い
組胡座く
驕慣（姑息）す
五夜鐘
汗膩

●あ ノ六

悪心しい
上框
憧（浮岩。狂浮）れる
信（恃）にする
抵辭（諷詆。冲撞。暗指）
拂曉（未明。昧爽）
淺陋しい
易厭（易倦）い
没字漢（無學。白翁）

粉韲
嬌たるい――――口をきく

さ

●さ ノ二

骰子
姻家（生家）
棧門に――を下ろす
笊
醜態

●さ ノ三

處辨く

さ　二三

竹葉（碧友）
殘（餘。未了）食ひ――飲み――燃え――
螫す虫が
献す盃を
催（感）す氣が

酒錢（酒料）

さ　三

鯊（腐爛）る魚が
大暑と
匆々（早々）
那裏
更紗
洒脱い
挈げる
雑魚寐（雑混寐）
朗える月が
洒える氣が
鏘える―音が
敏える目が
却説
竹籠物洗ひ用の
彫樂器の
褪める色が
冷める湯が
醒める酒が
覺（寤）める目が
肉波（魚軒）

傭妾
有繋（流石。道）

●さノ四

牙保
苛（嘖）む
前兆
消流る水が
快活（豁達）た――人だ
潺湲
逆僇

さ　三四

渕然
散々
月代（月額）
酒醤
諸諺
洒脱（爽利）氣が――する
全然――わからない
拂然――來ない
髐ふ

さ　四五

象嵌
綾紗形
垂髪
下墨（輕蔑。藐視）む
減々く
呟（耳語）く
潛々（潛然）

●さノ五

酬柿
寧親（歸寧）又さとびらき
當面（急刻）
吒（差含。漸含）む
障碍（支障）
凄（寂。淋。蕭。寞。寥）しい
蓬（卑。劣）しい
棧橋
酸慘（散々）――の目にあふ
暴露（露出）す
散亂放

然者（請了）！
交叉（耦刺）ふ
異議

●さノ六

慧黠ける
逆筋斗

●さノ七

獻酬相次

さ　五六七

相對（對座）
刻下（焦眉）
髣髴たり
明々白地

き　二三

●きノ一

杖子玉突の
問(訊。質)く人に物を
利く口を
明く目が

●きノ三

性急
端然(整然)
煩慮
稀代(奇態)

奏切く藥が
怨言(氣碍)
肌理(膚文)

氣質
凛然と――した風采
確的(必正。必然)――違ひない
豆渣(雪花菜)

怜悧――なたちだ
纖麗――に書く
俠
癖語(套語。十八番。定文句)――をいつて居る
体裁(面目)――がわるい
秩序物に――が無い
急須茶器の

●きノ四

危(殆)い
散欝(消憂。遣悶)

き　三四

熄える
機轉
洒脫(洒落)
氣催(崩)す
聽客(聽衆)
氣伸(悠長)――お事をいつて居るよ

懸念(關心。介意)する
縹致――が美い

き　四

器量――一つで どうにでもなる
無上
懸念
俏(瞿)り
嘘嗒
悸(慄然。愕然)と
決然(斷乎)
氣屈(窮屈)
稠密
鬱々(怏々)

煥々(的皪。爀燿。炫燿)
品位
脚榻
滑布
俏身(纖弱)
不興(不快)い
到腕
氣精(氣丈)
無賴漢(棍徒。光棍)
經飩粟の――

●きノ五

弄口才(爲知。利た風)
擬寶珠(葱臺)
曲録
誇大

●きノ六

謹嚴(方正)
切碎(寸斷)く

ゆ

行水(湯浴)
心懶
嚇着ける

瞿々(盱々)又きよろ〳〵
氣懊しい

ゆ　二　三　四

●ゆノ二

衍（着物の）

●ゆノ三

有餘（寛裕）

浴室（混堂。澡堂）

暢然

因緣

明衣（浴衣）

歪（典。苦窟）む

●ゆノ四

懶怠（不注意）

茄（煤）る

撼（搖）る

騙取る

左手（弓手。雄手）

懷（慕）しい

湯婆（煖足器）

綽然

搖々（漂々）く

融通

●ゆノ五

周到（洽。周徧）く

夕榮（夕映）

白雨（驟雨）

夕照（殘輝）

努々く

新理——の髷

め

●めノ二

ゆ　四　五　め　二

め　二　三　四

目處（目途）
右手（馬手。雌手。妻手）

●め ノ 三

耗入（沈。鬱）る氣が——
鑒識——に叶ふた
内嬖（外妾）
艷飾（靚。治。嬌飾）す
叨（妄）——にいはれぬ
鍍金——
銀——

●め ノ 四

不意——くらつた
眼色（目眥）
眇（眼瀦）
目授（眴）——で知らす
屈げる
鰍いわしの——
魚尾（眦尾。外眥）

莫大小
内眥
艷妝者
久濶——來なくなつた
堪驚——寒くなつた

●め ノ 五

滅相（堪驚）な
胸算

●め ノ 六

支離滅裂（鹵莽滅裂。漫滅）

め　四　五　六

目紛（目授。駛）
目禁（目授。眴）
着々（駛々）
嫩懦しい
奇怪
驚目しい
滅法界

み　二　三

み

●みノ二

態（狀態。外見）

●みノ三

乾尸（木乃伊）
瞪（瞠。睜）る目を——
微塵（毫頭）
外形（外貌）
外見
眉目（容貌）
服裝
渾身（全身）
親内（姻戚）
御闔（神籤）
家苞（土產）

見事（美麗。壯觀）
慘憺（悲慘）

●みノ四

眺望
見恍（見蘊。惚）れる
演路——をくふ
清洟
兎唇（缺唇）
水垢離
梳弄（破瓜）
刺繍
點水（水注子）
瞶（凝視）る
澤々（潤々）
默許す
瞰（伏瞰）す
目送（見送）る
貶る

み　四五

躰（みぶるひ）
身顫（戰慄。慄慄）
巫子寄（憑鬼術）
虚飾家
中止す仕事を一まつ——
蔑視（貌視）る
空子

●みノ五

漫理（みだれやき）刃の
身嗜（みだしなみ）（身慎）

身動（みじろぎ）（身轉）
身性
外觀（虚勢。虚威）
懲戒（懲惡）
不見手
看々（見在）

失敗（失策）ける
鼎足

身繕（身祓）
薄情い
隱々約々（隱見。顯晦）

●みノ六

身窄（窶）しい

耳語（諷刺）
衒ける

誇示（誇耀）かす

む

●しノ二

機會（好機。奇貨）
僞爲（佯爲。不知）——をきめる

み　五六し　二

泌（浸）む
柳條（縞）

し　二三

風雨（海が——だ）
不漁（魚が——だ）
辞誼
汚點（染汚）

しノ三

瞥然（瞬り）
有間（霎時）
老舗
纈纈（絞染）
四途亂（亂次。蹌踉）

紙魚（蠹魚）
質（——ながらだ）
同樣（一般）俳優——て居る
芯（蠟燭の——ランプの——）

後目（流盼。斜視）
憤（焦。躁。憤悶）る
捲貰（孖姑煙）
加之（且）
素養（——の出來て居る藝だ）

生來（生得）——は好ふり（御意はよし）
体裁
滑む（水を）
醺む（酒を）
躾（庭訓）
吹奏（笛の——）
清醒
讖（前兆。前表）
弄殺（燥殺）す
舅（阿翁）夫の父

し　三

外舅（岳父）妻の父
擧止（所作）
忍草
鎬（刄稜）
脚色
洒落
詮樣（所爲）
了（終）ふ（行て——）
終極（終局）
繁吹く

痙
扱(捩)く
細帶(扱帶)
逡る
遮壁——かあつて行かれぬ
間斷——なく雨ふる
四季施
首尾——よく行つた
密會——の一夜

しノ四

繻子(八絲)
濡(濕)る水で——
閉(鎖)る戸を——
占(得)た
縮羅(縐)
麻痺
嗔恚
糝粉
親身(肉親)

素人(未熟者)
濁醪
睮々(盱々)
間(且。暫時。有間。霎時)
魚醬
龍鐘(悄然)
靜無(乱次)い
閑雅(從容。叔。沈着)
涼爐
隱唆

後聲(餘聲)
憤悶氣が——する
躪々——つめ寄る
乏(貧)い
蹙(顰)る
肩懸
愜(萎縮)る
强曳く
所詮
七顚八倒

し　四

微甚（充分。顆多。健。苦。巨多）
自隨落（嬾懦）
皷舌
淫々く
好色漢
沾然
緊乎
四合（緊密）
濃厚い色が
多脂い味が

執拗い心が
冷興る坐が
姑夫の母
多姑（宅母）妻の母
偸眼（偸盼）
失敗（失策）る
喋る
狎戯れる
瀟灑れた——家の造りだ
妙手（巧手）

漏斗
飲仙（酒客）
掬る
邪慳
舐（晒。啜）る
端然と
頻繁——通ひ來る
凝乎——見つめる
强情い
火斗

し　四

饒多（充分）
繻珍（七絲）
瀟々
津濕
浸々（諄々。泌々。染々）
痺れる
杞憂くだらない——して居る
岑閑（森閑）
財産（家産）
柔靱

し　四五

媽兒　遊廓の——
妙齢女子　いきな——
神妙

●しノ五

連瞻
散私財る
乱次ない
可憐しい
吝嗇家
握保（蹙附）く

周諄、
淸々（剪々）——と寒くなる
沈々（更々）——と夜がふける

負揚帶
冒頭（發端。劈頭）
始終（始中終。時自久）
愁然（悄然）
得々（揚々。得意）
喫める　食事を

潦倒ない
焦躁い
執冗い
嬌れる
失策したり！
醜婦　ビウチフルより轉化したる語
捨二無二
緩解
那奴面（這面）
串戯（戯語）

し　五

囓噎（呃）
挺然
洒蛙的（鐵面皮。厚顏）
狎戯く
三鞭酒
無職業家
怵（楚）ない
殊勝
蓴菜
萎縮れる

し　五六

豐下(豐頰)
世帶——を搆へる
財産——のいゝ家だ

●しノ六

蹣跚蹌踉
自業自得
如才ない
妖婦(毒婦。尤物)
竹篦返
爲不知(佯爲)い又しらばくれる

身上此風が——だ
斟酌

二毛
遮欄
嗄聲
嫋々
虛誇(修飾)い
狎戯

牒合す

●しノ七

嚴格らしい
欷歔(呑泣。欷逆)げる

辛張棒

春慶髹
盡未來際

ひ

●ひノ二

尋(仞)深さ幾——
他的——の氣も知らないで
直——に寄り添ふ
——はしりに走る

し　六七ひ　二

裨(襞積)
浮帖(招帖)——をぶら下げる
貨牌——をまいて豪遊する

ひ　二　三

鬪く花牌を
蠢—ともせぬ
輸(人後)—は取らぬ
髭鼻下の
鬚頤の
髯頬の

●ひノ三

愛顧(贔負。斟視)
尾籠(失禮。賤陋)
披露

披風——を着る
龜裂壁に——がいつた
璽玉ょ—がある
胼かじさに—が切れた
峭然——とした目背

傍腹——を蹴る
皮肉——な事をいふ
酷(太。甚。徼。過)い

畏縮む
日子——がいゝ
僻見(偏僻。頗僻)
歪む
日向(日南)
日濟——の金

●ひノ四

天鵞絨
獨身(孥獨。單丁)
温雅

翻然
足—も拜まぬ
火伸(鉆鉾)
日來(屬日。向日)
犇と
鹿角菜

ひ　三　四

稠座
群衆
一層(一入。一倍)

ひ　四

鰭々く　魚が――はねる
辛々く（苛々）
鰆發（拆裂）れる
角眼
僻耳
翅然と――飛ぶ
偶然と――出あふ
萬一（倘然。蓋）――したら何々かも知れぬ
異な
餓怠（餒。肚飢。空腹）い　又ひもじい

混々く　水が――と
只管（專念。懇切）
平伏（俯伏）す
揚つ　色が――
閲寂
拘攣
固着く
吃驚
把玩（撚。捻）る
陰忍

閃々く　稲妻が
霏々く（繽粉）雨。雪などが
紛披く（婆娑）着物が
翻翻く　旌旗が
潤々く　波浪が
揭々く　刀刃が
飈々く　風が――と吹く
惴々く（悚々。憂懼）
素見す　店頭で品物を

ひノ五

ひ　四五

詠（冷弄。冷罵）す　人を
碾茶
抽斗（抽筐）
天窓
黎明　夜の――
嬾懦婦
米糊
鬩（乱響）く

ひ　五六

一應（一遍）
決然
一時
散付る魚が卵を——
趨然——飛び出る
突然（偶然）——出合ふ
不如意
飲仙（酒客）
引奪取（掠奪）る

●ひノ六

拗挫く
引攫ふ
不絶（無間斷。櫛比）
匾平い
婆娑（紛披）
蒲柳質
誇示（炫。誇輝）かす
退去ふ故郷を——
瀼々濡（全濡）

單丁（茕獨）
人身牲
肱鉄砲（拒絶）

●ひノ七

攪旋はす

●ひノ九

一丘の貉

も

●もノ二

ひ　六七九も

伶仃
寂寞閑
負暄（偃曝）

把玩はす

も　二　三

黏糊
傅婢
銛（魚猟）
尚―一度
―すこし
既（已）―見えぬ
―無い
揉む柔かに
鑽む錐で

もノ三

醪（醅）
既（業已）

焦（躁）む氣を
拗（捥）ぐ
剔ぐ鼻を
樅
籾
紅絹（絳帛）

擬（宛似）
鋸（狠牙棒）

捩る
蛻
悶躁（跪）く
縺（縺）糸の―
髮の―
葛藤（紛議）人事の
沒計（僥倖。意外）
貰ふ人から物を
迎（聘）ふ嫁。婿など
又藝人を他の座敷より

もノ四

兩裼（兩袒）

も　三　四

斥候
無鑑札
潜る
木槿
木理
舫
被厚遇（被欵待）る
文派（紋羽）

本色（特性。特質。特色。生得）

も 四

靠(凭)れる 欄干よ
停滞(食滯)れる むれが
至當(道理)其通り——だ
最 —多い —少い
尤 おれはいやだ —條件附なら承諾しやう
設る 屋上に避雷針を——
儲(用意)る いつでも米だけは —けてある
贏(贏)る それを賣って いくら——
失費(散財。費耗)
語氣
素封家(富豪)
好奇
較計(企畫。圖計)
木犀
鬱々(憤々)
沒義道
耳前毛
忸怩(搓挪。含羞 踟躕。逡巡)
燃片(餘燼。餘焚)
桃尻 ——に座わる

怪精
筋斗

もノ五

可悶しい
勃興る 騷動が
勃起る 倒れて居たものが
扛げる
陪涙
胡慮
健忘(遺忘)
土龍
捫着(紛議)

もノ六

勿体ない
寂寥(悽愴)しい
煩悶(蒸蘊)

せ　二　三

せ

●せノ一

身材（身長）――が高い
競（糶）る　價を――
精縷

●せノ二

青磁――の皿
臺詞
嚙讀む又せびる

所爲（故）その――だちう
堰く　水を――
須（應。必。適）――來たまへ又ぜつび

刹那
促（急付）く
節季――師走

精々（孜々）
傭人
女衒（忘八。囮戸）

●せノ四

蒸籠
贅澤（奢侈）
奄々――と息をする
狹門際（迫戸際）
迫出（押出）す
拒絶れる

せ　三　四

切（迫）て
撈る

焦躁
性急
切な（薩禁。難堪）い
膠灰
舟子（船頭。榜人。黄頭郎）
穿鑿

せ　五　六　す　二

●せノ五

忙怨（栖々。促迫。倥偬）い
狭邪子

●せノ六

冷笑（嘲笑）ふ

す

●すノ二

驚破——敵が襲來した
掏摸

萬分一の
前表何かの——だらう

纖蘿蔔

好（嗜）くきらふの反對
漉く紙を

梳く髪を
結く網を

●すノ三

粗漏（緩怠）
徒膚（生膚）
窄（窄隘。褊小）む
辷（滑。脱。失脚。滓汰）る
退る座を
失言る口が
嬾懦婦

す　二　三

耡く田を
赤手（素手。徒手。空拳）

鰯
艘（艙）る舟が障碍に觸れて前進せざる說
縋る
透す上から外から
聯（偷視）す離れたるものを
賺す人の氣を
直と——通る

す　三　四

拗強（拗捩）る
娉婷（纖削）
選（擇）る
竦（竦縮。窘）む

●すノ四

敏捷い
滑然
通心る 大根に――
虚さず――切込む
寸烈（寸斷）

凄い
非常（非凡。拔群。白眉）
數奇舍 茶寮をいふ
珠寄屋――着物の

悉皆（全然）――無くした
釋然（脫然）それで――わかつた
矗然――突立つ
滔々
水飩（水團）

清穩――眠る
無情い
蘇絨
憮然（蕭々。悄然）
炭斗（烏府）

●すノ五

堪感しい
摘發（訐。發）く
粹興（醉興）

素性
喫殼 煙草の――
清爽又すが〳〵
慫慂るおだて――
駸々――行て了ふ

す　四　五

獻欷
銅鈴眼

俗語と難辭 畢

附錄

俗語と難辭 畢

假字づかひ

い

●ゐ若くはひに紛るゝもの　次の五語

むくい　報

さいづち　柊撥

ね

かいつぶり　耀

おいぬき　老

くいな　悔

ね

●いに紛るゝもの　次の十語

ね　居さりね　かもね

ゐや　くもね　まさね

禮

ゐ　亥

ゐ　井

ね

ねなか　田舍
ねのこ　豕
ねざり　膝行
●ひに紛るゝもの　次の十一語
あね　藍
とのね　宿直
かたね　乞兒
うなね　髫髮
くわね　慈姑
くらね　位
ねもり　蜩
ねせき　堰堤ねぐひ
まねる　參
ひきね　率
もとね　基
もちね　用
くれなね　紅
あぢさね　紫陽花

を

●おに紛るゝもの　次の四十八語　他は皆おなり

を

を　緒
を　苧
を　尾をばな
を　岑をのへ
を　脉みをつくし
を　小をすぐし　をぐるま
を　男(雄)をさこ　ますらを　たけを　みやびを
を　伯叔母
を　遠方をちこち　をちかた
を　伯叔父
を　老翁
を　時節をり
をり　檻
をる　居
をる　析
をゝ　唯
をか　岡
をの　斧
をけ　桶
をて　愚戲をこがまし
をさ　長
をさ　箴
をぎ　荻
をし　鴛鴦

を

をひ　甥
をろち　蛇
をはる　終
をとり　媒鳥
をどる　踊
をかし　可笑
をかす　犯
をがむ　拜
をごる　驕
をさむ　治(納)
をめく　叫
をみ　女(たんなをとめ)

をし　教
をしむ　愛(惜)
をしね　晩稲
をしき　析敷
をゝし　勇狀
をとつひ　一昨日(をとゝし)(一昨年)
をのゝく　戰慄
をこたる　怠(愈)
をさ〳〵　多くは餘りにはの意
をさなし　幼稚
をしかは　韋
をみなへし　女郎花

いを　魚
とを　十
あを　青
さを　竿
みを　水豚
いさを　功勳
ばせを　芭蕉
みさを　操

わ

あわ　泡

はに紛るゝもの　次の十六語　他は皆はなり

かをる　薫
やをら　徐々
まをす　申
しをり　栞
しをる　萎
しをん　紫苑
たをやか　嬋娟たをやめ
てをばい　紅梅

はに紛るゝもの　次の十五語　他は皆はなり

しわ　皺

わ

ひわ　鶸
いわし　鰯
かわく　乾
よわし　弱
たわむ　撓
うわる　植
くわね　蕊姑

●合名詞にてはに紛るゝもの　例

のわき　野分
くるわ　廓
くつわ　轡
しわざ　作業

あわつ　周章
さわぐ　騒
ゆわう　硫黄
すわる　坐
たわやか　嬋娟
さわやか　爽

はらわた　腸
ことわり　理
ことわざ　諺
こわづくり　聲作

え

はえ　蠅
ぬえ　鵺
ふえ　笛
ひえ　稗
さゝえ　榮螺

●ゑ若くはへに紛るゝもの　次の九語

きのえ　甲
もえぎ　萠黄
ひこばえ　蘖
ひえどり　鵯

ゑ

●ゑ若くはへに紛るゝもの　次の二十一語

ゑさ　餌
ゑまき、ゑのぐ　繪
ゑぼうぐる　彫

ゑた　穢多
ゑふ　醉
ゑみ　咲
ゑくぼ

ぢ

ぢぼし 烏帽子
ぢつく 吐
ぢぐし 酸
ぢんじゆ 槐
ちぢ 智恵
つぢ 杖
うぢ 植
うぢ 飢

じ

こぢ 聲
ゆぢ 故
すぢ 末こずゑ
すぢ 坐
すぢ 陶
ともぢ 巴
つくぢ 机

●次の四十三語 他は皆ぢなり

じ 打消の時
はじ 櫨

にじ 虹
ぢじ 刀自老女の通

つじ 辻
うじ 蛆
くじ 籤
さじ 匙
きじ 雉
はじく 彈
はじめ 始
まじる 交(雜)
あじろ 網代
あじか 簀
さじき 桟敷

じ

にじる 蹂
はじゝ 脯
なじる 詰
むじな 狢
くじる 抉
くじく 挫
やじり 簇
しゞむ 縮
しゞみ 蜆
ひじり 聖
ひじき 鹿尾菜

じ

なまじひ　懲
まなじり　眦
まじなひ　禁厭
みじかし　短
いちじるし　著明
かたじけなし　辱
いみじ　甚
つゝじ　躑躅
つむじ　飄

ず

つむじ　廻毛
むらじ　連　姓なり
うなじ　頂
おなじ　同
あるじ　主人
あるじ　饗應
ひつじ　羊
すさまじ　荒涼

●次の十六語　他は皆づなり

ず　打消の時

はず　筈

かず　數
くず　葛
きず　疵
もず　鵙
すゞ　錫
すゞ　鈴すゞむし
ねずみ　鼠

すゞろ　不覺(漫)
すゞき　鱸
すゞめ　雀
すゞし　涼
みゝず　蚯蚓
たゝずむ　彳
なずらふ　準

音便の假字

●きがいとなる例

いだいて　抱(いだきて)
かいて　書(かきて)

ずい

ついたち　朔日(つきたち)
ついたて　衝立(つきたて)

い う

さいはひ　幸（さきはひ）

●しがいとなる例

長（ながし）

熱（あつし）

寒（さむし）

短（みじかし）

●はがうとなる例

箒（はゝき）

●ほがうとなる例

直衣（なほし）

●へがうとなる例

まうちきみ　卿（まへつきみ）

さいたま　埼玉（さきたま）

ゑぐい　酸（ゑぐし）

わたくい　私（わたくし）

くい　串（くし）

もてない　響應（もてなし）

かうはり　蝙蝠（かはほり）

つかうまつる　仕（つかへまつる）

●りがうとなる例

とうで　取出（とりで）

●をがうとなる例

まうす　申（まをす）

●かがうとなる例

かうぶり　冠（かゝぶり）

●むがうとなる例

かうじ　柑子（かむし）

たうげ　峠（たむけ）

●ねがうとなる例

まうで　參出（まゐて）

●くがうとなる例

う

ひうが　日向（ひむか）

う

かうし　隔子（かくし）
やうやう　漸（やうやく）
●まがうとなる例
たうばり　賜（たまはり）
●ふがうとなる例
はうし　法師（はふし）
●みがうとなる例
かうべ　神戸（かみへ）
こうぢ　小路（こみち）
てうづ　手水（てみづ）
●ひがうとなる例
いもうと　妹人（いもひと）

ひやうし　拍子（ひやくし）

さうらふ　候（さふらふ）

かうがい　髪搔（かみかき）
かうつけ　上野（かみつけ）

くらうと　藏人（くらひと）

う

こまうと　高麗人（こまびと）

せうと　兄人（せびと）

誤り易き字音

忌諱　キキ
覬覦　キキ
價値　カチ
避暑　ヒショ
妥當　ダタウ　妥と穩と誤る
諡號　シガウ　諡と諡と誤る
蹄仆　フクフ
櫛比　シツピ
祝詞　シウシ　祝賀祝日祝言皆同じ
泛駕　ハウガ

憎惡　ゾウヲ　惡字あしゝと訓む時は音アク
軒輊　ケンチ
破綻　ハタン
義捐　ギエン　捐と損と誤る
汚衊　ヲマツ
雨雹　ウハク
斗杓　トヘウ
參差　シンシ
嗚咽　ヲエツ
耗損　カウソン

四

斡旋　アツセン　斡と幹と誤る
猛獰　ダウモウ
撮影　サツエイ
貪婪　タンラン
紊乱　ブンラン
絢爛　ケンラン
暇然　シンゼン
借問　シヤモン
誚傳　クワデン
倜儻　テキタウ
鑄造　シユザウ
偸盗　トウタウ

白晳　ハクセキ　晳と哲と誤る
巾櫛　キンセキ
敵愾　テキカイ
提撕　テイセイ
容喙　ヨウカイ
駐劄　チウサツ
剛愎　ガウヒツ　愎と復と誤る
老媼　ラウアウ
貯蓄　チヨタウ　蓄と畜と誤る
饕餮　タウテツ
忉怛　タウタツ
内帑　ダイタウ

睚眦　アイサイ
悖戾　ハイレイ
耽々　タンタン
副將　フシヤウ　副字かなふと訓む時は音フク
閲檻　ゲキシヨウ
從容　シヨウヨウ

快哉　クワイサイ
龍凖　リヨウセツ
膏肓　カウクワウ　肓と盲と誤る
計畫　ケイクワク　クワと訓む時はカクと読む
擴張　クワウチヤウ
輸出輸入　シユスヰシユニウ

四五六八